

北海道湧別町沖で採集された カエルアンコウ科魚類のハナオコゼ *Histrio histrio*

河合俊郎¹⁾・竜田直樹²⁾・松原創³⁾

Toshio Kawai, Naoki Tatsuta & Hajime Matsubara. 2018.

Record of *Histrio histrio* (Lophiiformes: Antennariidae) from the Sea of Okhotsk, Yubetsu, Hokkaido, Japan.

Bulletin of the Historical Museum of Urahoro, 18: 33-35.

Key words: Sargassum frogfish, HUMZ, specimen, Tsushima Current, Soya Current

1. はじめに

カエルアンコウ科 Antennariidae 魚類は世界中の温帯から熱帯海域に分布し、13属 47種が知られている (Pietsch & Grobecker 1987; Nelson et al. 2016)。本科魚類はこれまで日本周辺海域では3属 15種が報告されている (瀬能 2013)。

2011年10月13日に北海道湧別町沖のオホーツク海で採集された1個体のカエルアンコウ科魚類を分類学的に調査した結果、ハナオコゼ *Histrio histrio* (Linnaeus, 1758) と同定された。本種は世界中の温帯から熱帯海域に広く分布する (Schultz 1957; Pietsch & Grobecker 1987; Pietsch et al. 1992; Mundy 2005; Pietsch 2016)。

本種が亜寒帯海域のオホーツク海から採集されるのは極めて稀なため、分類学的に記載し、オホーツク海からの標本に基づいた初めての記録として報告する。

2. 計数および計測方法

計数および計測は、頭長を除いて Hubbs & Lagler (1958) に従った。頭長は吻端から鰓孔上端までの長さを計測した。計測にはデジタルノギスを使用し、0.1 mm 単位まで行った。標準体長は SL の略号を用いた。本研究に用いた標本は 10% ホルマリンにて固定後、50% イソプロピルアルコールに置換され、北海道大学総合博物館の魚類標本 (HUMZ) として登録・保管されている。

3. 標本

ハナオコゼ *Histrio histrio* (Linnaeus, 1758) (図 1) : HUMZ 215081、1 個体、110.6 mm SL、北海道湧別町沖オホーツク海、2011年10月13日。

4. 記載

背鰭鰭条数 I-I-12、臀鰭鰭条数 7、胸鰭鰭条数 9、腹鰭鰭条数 5、尾鰭主鰭条数 9。

標準体長に対する各部位の百分率 (%) を以下に示す：頭長 50.3、吻長 7.8、上顎長 23.6、眼径 4.4、両眼間隔 9.0、第 1 背鰭棘長 5.2、第 2 背鰭棘長 11.9、第 3 背鰭棘長 20.0、腹鰭長 27.4、尾柄高 14.8。

体は円形で側扁する。体表は円形小瘤で覆われる。体全体に小さな皮弁がまばらにある。吻は短く、吻端から第 1 背鰭棘の間の正中線上に 2 本の皮弁がある。口は斜め上方を向く。上顎と下顎には小さな犬歯状円錐歯が多数あり、それぞれ歯帯を形成する。眼は小さい。鰓孔は胸鰭基部の直下に開く。第 1 背鰭棘は非常に短く、皮膚に覆われない。第 1 背鰭棘の先端には多数の皮弁がある。第 2 背鰭棘は後方にやや湾曲し、全体が皮膚に覆われる。第 3 背鰭棘は後方にやや湾曲し、全体が皮膚で覆われ、その先端には多数の皮弁がある。背鰭軟条部の基底は長く、体中央から始まり尾柄で終わる。臀鰭は肛門の直後から始まり、その基底後端は背鰭軟条部の基底後端の下方に位置する。胸鰭は長く、その後縁は肛門に達する。腹鰭は長く、その基部前端は上顎後端の下方に位置する。尾鰭はほぼ

1) 北海道大学総合博物館水産科学館 (〒041-8611 北海道函館市港町 3-1-1)

2) 北海道大学大学院水産科学院 (〒041-8611 北海道函館市港町 3-1-1)

3) 東京農業大学生物産業学部 (〒099-2493 北海道網走市八坂 196)

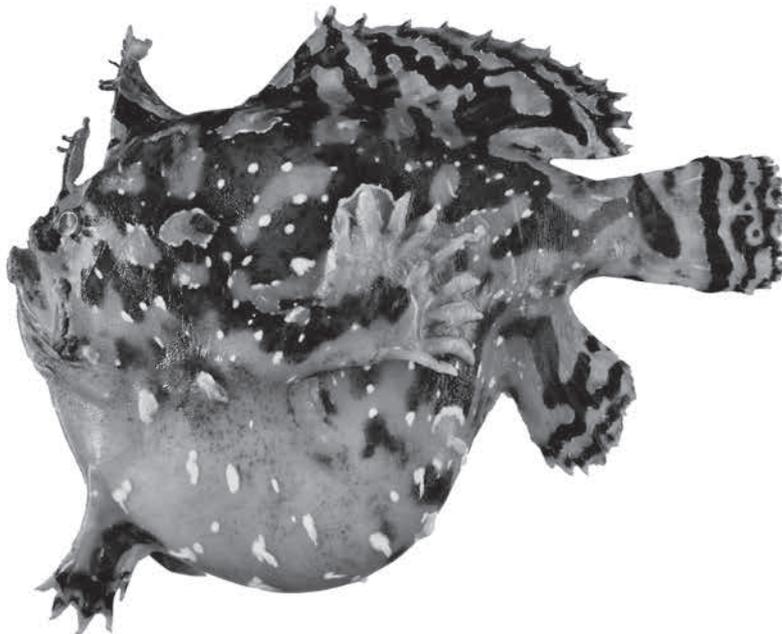


図1 ハナオコゼ *Histrio histrio*、HUMZ 215081、110.6 mm SL、北海道湧別町沖、2011年10月13日。

截形を呈する。

カラー写真に基づく生鮮時の色彩(図1)は、体全体が薄い黄色からオレンジ色で、主に体背部が黒褐色の不定形の虫食い状斑に覆われる。小さな乳白色の斑紋が体全体に散在する。体の小さな皮弁はオレンジ色を呈する。

10%ホルマリン固定後に50%イソプロピルアルコールに保存中の体色は褪色し、体全体が淡褐色になる。黒褐色の不定形の虫食い状斑は生鮮時の色彩と同様である。乳白色の小さな斑紋と、オレンジ色の小さな皮弁は褪色し、淡褐色となる。

5. 分布

ハナオコゼは世界の主に温帯から熱帯海域に分布する(Schultz 1957; Pietsch & Grobecker 1987; Pietsch et al. 1992; Pietsch 1999, 2002, 2016; Mundy 2005)。日本近海では北海道から沖縄までの日本海、東シナ海および太平洋沿岸(Amaoka et al. 1989; 尼岡ほか 2011; 瀬能2013)、およびオホーツク海(前田・筒井2003; 本研究)の日本中から報告されている。

6. 備考

ハナオコゼ属はハナオコゼのみから構成される(Pietsch 1984; Pietsch & Grobecker 1987; Nelson et al. 2016)。本標本が示す尾鰭主鰭条数は9、第1背鰭棘は非常に短い(5.2% SL)、腹鰭は長い(27.4% SL)、体表は円形小瘤で覆われる、吻端から第1背鰭棘の間の正中線上に2本の皮膚状突起があるなどの特徴はPietsch(1984)およびPietsch & Grobecker(1987)の示したハナオコゼの記載と一致した。従って、本研究では本標本をハナオコゼと同定した。

ハナオコゼはこれまで多くの文献で北海道南部以南に分布するとされてきた(例えば、尼岡ほか 2011; 瀬能 2013)。本種のオホーツク海からの報告は前田・筒井(2003)の示した種リストのみで、標本に基づいた報告はこれまで知られていない。従って、本報告は本種のオホーツク海からの標本に基づく初めての記録となる。本種はホンダワラ類などの流れ藻について、沖合の表層にて生活することが知られている(Pietsch 1984, 2016; Pietsch & Grobecker 1987; 瀬能 1997 2013)。本標本は、流れ藻と共に対馬暖流に乗って宗谷海峡を通り、宗谷暖流に流されてきたと考えられる。

7. 比較材料

ハナオコゼ *Histrio histrio*、HUMZ 212768、1 個体、107.0 mm SL、北海道函館市函館山沖、2011 年 9 月 15 日。

8. 引用文献

- AMAOKA, Kunio, Kazuhiro NAKAYA & Mamoru YABE 1989. Fishes of Usujiri and adjacent waters in southern Hokkaido, Japan. Bulletin of the Faculty of Fisheries, Hokkaido University 40: 254-277.
- 尼岡邦夫・仲谷一宏・矢部衛. 2011. 北海道の全魚類図鑑. 482pp. 北海道新聞社, 札幌.
- HUBBS, Carl L. & Karl F. LAGLER 1958. Fishes of the Great Lakes region. Bulletin of the Cranbrook Institute of Science 26: 1-213, pls. 1-44.
- 前田圭司・筒井大輔. 2003. 北海道産魚類リスト. 水鳥敏博・鳥澤雅 (監), 上田吉幸・前田圭司・嶋田宏・鷹見達也 (編), 新 北のさかなたち 漁業生物図鑑. pp.481-504. 北海道新聞社, 札幌.
- MUNDY, Bruce C. 2005. Checklist of the fishes of the Hawaiian Archipelago. Bishop Museum Bulletin in Zoology 6: 1-703.
- NELSON, Joseph S., Terry C. GRANDE & Mark V. H. WILSON 2006. Fishes of the world, fifth edition. xli + 707pp. John Wiley & Sons, Inc., Hoboken.
- PIETSCH, Theodore W. 1984. The genera of frogfishes (family Antennariidae). Copeia 1984: 27-44.
- PIETSCH, Theodore W. 1999. Antennariidae. In CARPENTER, Kent E. & Volker H. NIEM (eds.), The living marine resources of the western central Pacific. Volume 3. Botaid fishes, chimaeras and bony fishes part 1 (Elopidae to Linophrynidae). FAO species identification guide for fishery purposes. pp.2013-2015. FAO, Rome.
- PIETSCH, Theodore W. 2002. Antennariidae. In CARPENTER, Kent E. (ed.), The living marine resources of the western central Atlantic. Volume 2. Bony fishes part 1 (Acipenseridae to Grammatidae). FAO species identification guide for fishery purposes. pp.1050-1051. FAO, Rome.
- PIETSCH, Theodore W. 2016. Antennariidae. 2051-2053. In CARPENTER, Kent E. & Nicoletta DE ANGELIS (eds.) The living marine resources of the eastern central Atlantic. Volume 3. Bony fishes part 1 (Elopiformes to Scorpaeniformes). FAO species identification guide for fishery purposes. pp.2051-2053. FAO, Rome.
- PIETSCH, Theodore W. & David B. GROBECKER. 1987. Frogfishes of the world. Systematics, zoogeography, and behavioral ecology. xxii + 420pp., 56pls. Stanford University Press, Stanford.
- PIETSCH, Theodore W., David B. GROBECKER & Bill STOCKLY. 1992. The sargassum flogfish, *Histrio histrio* (Linnaeus) (Lophiiformes: Antennariidae), on the Pacific plate. Copeia 1992: 247-248.
- SCHULTZ, Leonard P. 1957 The frogfishes of the family Antennariidae. Proceedings of the United States National Museum 107: 47-105, pls.1-14.
- 瀬能宏. 1997. ハナオコゼ *Histrio histrio*. 岡村収・尼岡邦夫 (監・編), 山溪カラー名鑑 日本の海水魚. p.136. 山と溪谷社, 東京.
- 瀬能宏. 2013. カエルアンコウ科. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. pp.537-542, 1883-1885. 東海大学出版会, 秦野.

9. 謝 辞

本研究で用いた標本を寄贈頂いたオホーツク・ガリ
ンコタワー株式会社の永田隆一氏に感謝する。